

1.事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 しまねブランド推進課長 日下 純子 電話番号 0852-22-6858

事務事業の名称	未来へつなぐ工芸品総合振興事業	
目的	(1) 対象	県内の伝統工芸品製造業
	(2) 意図	伝統工芸品の販売促進と後継者の育成を図る
事業概要	島根県の工芸品の販路拡大、認知度向上のため支援を行う。 ○首都圏を中心した展示会等への出展支援 ○認知度向上を図るため情報発信 ○後継者確保のため雇用就業者資金の貸付	

2.成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 一般社団法人島根県物産協会での伝統工芸品の販売額	目標値		65,000.0	65,000.0	65,000.0	65,000.0	千円
		取組目標値						
	式・定義 伝統工芸品の年間販売額	実績値	68,916.0					%
		達成率	-	-	-	-	-	
2	指標名 新たに確保した後継者	目標値		2.0	2.0	2.0	2.0	人
		取組目標値						
	式・定義 後継者育成支援等の実績	実績値	4.0					%
		達成率	-	-	-	-	-	

3.事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	15,719	13,250
うち一般財源(千円)	15,059	12,080

4.改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5.評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

○販路開拓  
出展助成により全国規模の商談会及び展示即売会に出展した工房16  
ふるさと伝統工芸品連絡協議会への委託により県内外での展示会等への出展した工房58工房  
○後継者育成  
本制度の利用者36名のうち28名が継続就業(8割弱)

6.成果があったこと(改善されたこと)

○首都圏での商談会出展により、新たな販路開拓への取組がみられた。  
○商談会への出展形式を共同出展形式にしたことにより、新規の事業者の出展があった。

7.まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」  
○工芸品はある程度高額になるため、購入にまで結びつけることが難しく、消費者需要が減少している。  
○県指定事業者97工房(平成27年度末)のうち、4割近くが後継者が確保できていない(工房への聞き取り調査)。このため、今後、工房数の減少が懸念される。

②困っている状況が発生している「原因」  
○消費者に対して、伝統工芸品の価値が十分に理解されていない面がある。  
○小規模事業者がほとんどの状況の中で個々にPR等を行うことには限界があり、情報発信が十分に出来ていない。  
○ストーリー性やデザインに着目した商品を取り扱っている店舗との接点が薄い。  
○伝統工芸産業として従業者の所得面等に課題があり、若者にとって魅力ある産業になり得ていないことから、結果として後継者(経営者)が確保できていない。

③原因を解消するための「課題」  
○消費者に対して、伝統工芸品の価値を理解してもらえるような情報発信、多様な流通・販売チャネルの開拓が必要  
○従業者を確保するため、若者等に対して、就業先として魅力ある産業であるとの情報発信が必要  
○経営者の子息や従業者が円滑に現在の経営者から円滑に事業を承継できるような支援が必要

8.今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

○伝統工芸品のPR誌などにより、消費者への情報発信に取り組む。  
○島根県ふるさと伝統工芸品連絡協議会への委託による自主販売の支援を継続するとともに、全国規模の商談会等への参加を促し、事業者自らが消費者ニーズを把握し、販路開拓力をつける事を支援する。  
○就業先として魅力ある産業であるとの情報発信や、経営者の子息や従業者が円滑に現在の経営者から円滑に事業を承継できるよう支援する。

9.追加評価(任意記載)

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効果的・効果的に行ってください。  
上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。